

および甲状腺機能異常を伴わない各種疾患の3群につき、24時間尿中 free T₄ を測定したところ、甲状腺機能亢進症群と甲状腺機能低下症群との区別は容易であったが、各種疾患群では他の群との間に重複が認められた。しかし、同一症例において尿中 Free T₄ と血中甲状腺ホルモンレベルとの関連性をみたところ、臨床病態解析上、きわめて有用な指標であることが確かめられた。

39. ²⁰¹Tl-chloride による悪性甲状腺腫診断の有用性について

玉木 長良 石原 隆 森 徹
(神戸中央市民・内)
大城 徳成 森本 義人 伊藤 秀臣
尾藤 早苗 (同・RI)

悪性甲状腺腫の疑われた40例、および甲状腺腫瘍術後再発の疑われた19例、計59例に ²⁰¹Tl chloride 静注20分後の early scan を施行し、その臨床的意義について検討した。

甲状腺癌21例中20例に集積をみたが、組織学的所見による集積度の差異はみられなかった。なお、分化度の低い乳頭癌腫の1例には集積はみられなかった。一方、良性疾患でも腺腫12例中6例、慢性甲状腺炎5例全例に ²⁰¹Tl の集積がみられ、²⁰¹Tl の甲状腺癌への集積は特異性に乏しいと考えられた。

甲状腺癌の術前および術後に頸部リンパ節腫大をきたした大部分の症例に ²⁰¹Tl の集積があり、一例には触知できなかった鎖骨上窩のリンパ節転移部にも集積し、²⁰¹Tl シンチが有用であった。また、術後前頸部に腫瘤を触知した甲状腺癌3例全例に腫瘤に一致して ²⁰¹Tl の集積があり、うち1例は^{99m}Tc の集積もみられ術後発生した慢性甲状腺炎であったが、残る2例は^{99m}Tc のとり込みがなく、手術にて癌再発が確認された。一方遠隔転移の疑われた4例全例に ²⁰¹Tl の転移部の集積が認められた。

²⁰¹Tl は好適なエネルギーを有し被曝線量が少なく、従来の腫瘍に用いられた核種に比べてより良好なイメージを示し、シンチグラフィー上有用な核種である。甲状腺癌への特異性に乏しく、良悪性の鑑別には利用されるべきではないが、術前術後の頸部リンパ節腫大の意味づけ、遠隔転移部の判定、および術後にみられる前頸部腫瘍の診断上有用であった。

40. 慢性甲状腺炎の ²⁰¹Tl シンチグラフィーについて

岡村 光英 沢 久 中島 秀行
福田 照男 越智 宏暢 浜田 国雄
小野山靖人 (阪市大・放)
森井 浩世 (同・2内)

慢性甲状腺炎における ²⁰¹TlCI の early および delayed シンチ像を検討した。

診断基準に基づいて慢性甲状腺炎と診断された24例を対象とした。²⁰¹TlCI 2 mCi を静注し、10~20分後に early scan, 3時間後に delayed scan を施行した。24例の¹²³I シンチ像の内訳は、びまん性均一5例、びまん性不均一12例、部分欠損像4例、全欠損3例であった。¹²³I シンチ像のいかんにかかわらず、Tl early scan では全例甲状腺に一致してTlの強い異常集積を認め、delayed scan でも全例 back ground より強い RI の残存を認めた。¹²³I uptake と Tl シンチ像の集積の程度には相関が認められなかった。慢性甲状腺炎以外に Tl early scan にてびまん性に強い集積を認めたものに、バセドウ病、甲状腺全体が癌であった症例を経験した。バセドウ病では delayed scan にて RI の集積は消失したが、全体が癌の場合、delayed scan にても慢性甲状腺炎と同程度の RI の残存を認めたので Tl シンチ上は鑑別診断は困難であった。この例では Ga シンチで全体に強い集積を認め、手術の結果、未分化癌であった。

慢性甲状腺炎に癌の合併していた一症例では、慢性甲状腺炎の部分の Tl の集積が強く、癌の部分は相対的に弱く見えたため、癌の存在診断は困難であった。Tl シンチ像で均一な集積を認めない場合、十分な注意が必要と思われた。

41. γ CBF functional image と CT 所見

中村 雅一 福永 隆三 高野 隆
中井 一夫 白井 潤 (神掖済・内)
楠 正仁 (阪大・1内)
木村 和文 (阪大・中放)

¹³³Xe を使った脳循環機能検査法としての γ -CBF-functional image (FI と略す) と、脳の器質的病像を示す CT-scan とを、大脳皮質症候を持った脳梗塞例にて、比較検討したので報告する。